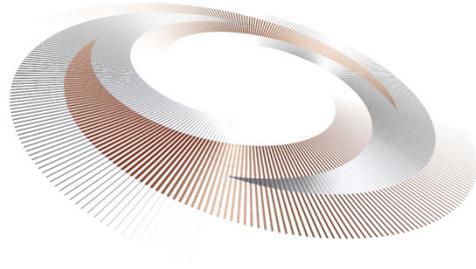


2025年3月期第1四半期決算補足説明資料

2024年8月7日



執行役常務の高柳でございます。
本日は、弊社決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
それでは、2025年3月期 第1四半期決算概要及び2025年3月期通期業績見通しについて
ご説明いたします。
まずは、決算補足説明資料の4ページ、エグゼクティブサマリをご覧ください。



人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する

限りある資源を大切に使うために、使用済みの製品を資源として再生させる。

そこに新たな価値を付加し、再び社会に送り出す。

その循環のプラットフォームを構築し、自らプレイヤーとして価値を創出する。

そして未来に向けて、持続可能な社会の実現に力強く貢献し、循環の輪を広げていく。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

目次

1. エグゼクティブサマリ	P.4
2. 損益推移の状況（四半期）	P.5
3. 25年3月期第1四半期実績	P.6
4. 連結貸借対照表	P.8
5. 25年3月期通期業績予想	P.9
6. セグメント概況	P.10
7. UBE三菱セメント社概況	P.14
8. 参考情報	P.15

エグゼクティブサマリ

1Q景況感・ 今後の見通し	<ul style="list-style-type: none"> ● 自動車市場は、前年同期比では世界の販売台数は増加、日本は減少。当社の伸銅品や超硬製品については、特に日本を中心に需要が低調に推移。自動車販売台数は2Q以降も緩やかな回復が予想される。伸びが鈍化するという見方もあり、引き続き需要動向には注視が必要。 ● 半導体市場は、生成AI向けを中心に回復の兆しがみられる。川上に位置する半導体材料メーカーの本格的な需要回復は下期以降の見込み。
1Q実績 (対前年同期比)	<p>1Q実績は、対前年同期比で増収・増益。</p> <p>売上高は、金属事業における電気銅の増販に加えて、円安影響や銅価上昇などにより増収（3,626億円→5,137億円、対前年同期比+42%）。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 営業利益は、金属事業での増販に加えて、為替及び銅分のヘッジの停止※、円安・銅価上昇の影響もあり増益（37億円→128億円、対前年同期比+238%）。 ※定常的な先物安によりヘッジが機能しなくなったことから銅鉱石の為替、銅加工の原料銅分について一部ヘッジを停止したもの（以下「為替・価格変動差」）。 ● 経常利益は、営業利益の増益に加えて、UBE三菱セメント社の持分法投資利益が増加したことなどにより増益（69億円→186億円、対前年同期比+167%）。 ● 純利益は、PT. Smelting（インドネシア）の持分法適用関連会社化に伴う持分変動利益などにより増益（49億円→209億円、対前年同期比+326%）。
通期業績予想	<ul style="list-style-type: none"> ● 為替・価格変動差を除いた1Q実績は、ほぼ想定通り進捗。 ● 通期業績予想・配当予想は、前回（5月14日）公表値から変更なし。 ● 2Q以降は為替等において不透明感が強いと見られ、今後の市場動向を注視し、公表済みの業績予想に変更が必要と判断される際には、改めて業績予想の修正を行う。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

4

最初に景況感についてご説明します。

自動車市場は、前年同期比で世界の販売台数は増加していますが、日本は減少しました。当社の伸銅品や超硬製品については、特に日本を中心に需要が低調に推移しています。自動車販売台数は第2四半期以降も緩やかな回復を予想していますが、伸びが鈍化するという見方もあり、引き続き需要動向には注視が必要な状況です。

半導体市場は、生成AI向けを中心に回復の兆しがみられますが、期初に想定したとおり、川上に位置する半導体材料メーカーの本格的な需要回復は下期以降を見込んでおります。2025年3月期第1四半期実績は、対前年比で増収、増益となりました。

売上高は、金属事業における電気銅の増販に加えて、円安影響や銅価上昇などにより増収となりました。

営業利益は、金属事業での増販に加えて、為替及び銅分のヘッジ停止、円安や銅価上昇の影響などにより増益となりました。

「為替及び銅分のヘッジ停止」とは、定常的な先物安により機能しなくなった銅鉱石の為替、銅加工の原料銅分にかかるヘッジの一部を停止したことであり、ヘッジの停止に伴い発生した、為替、銅価の変動による損益影響を「為替・価格変動差」と表現しております。

経常利益は、UBE三菱セメント社の持分法投資利益が値上げや為替の円安により増加したため増益となりました。

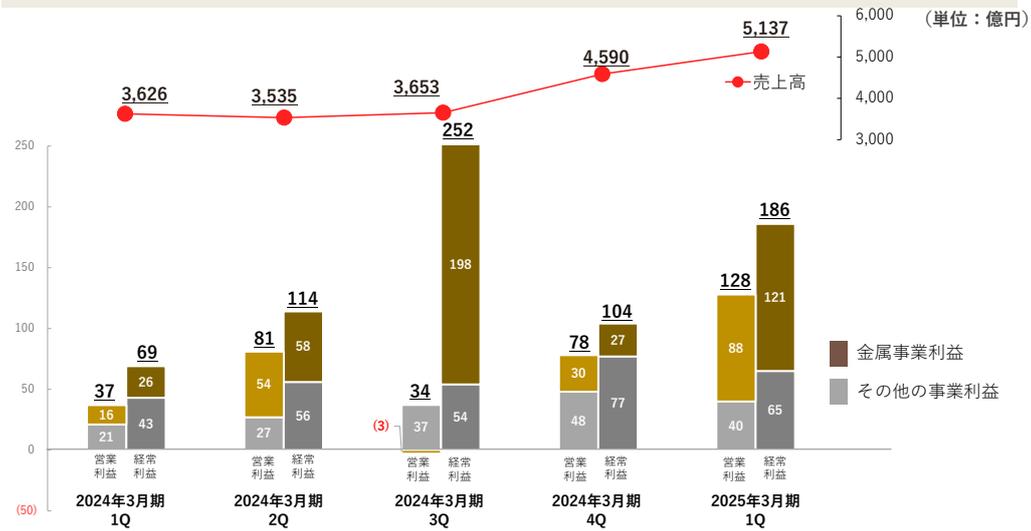
純利益は、PT. Smelting社の持分法適用関連会社化に伴う、持分変動利益を計上したことなどにより増益となりました。

為替・価格変動差を除いた第1四半期実績は、ほぼ想定通り進捗しています。この点を踏まえて、通期業績予想・配当予想は、前回（5月14日）公表値から変更していません。

第2四半期以降は為替等において不透明感が強いと見られ、今後の市場動向を注視し、公表済みの業績予想に変更が必要と判断される際には、改めて業績予想の修正を行います。続いて、5ページ、四半期推移をご覧ください。

損益推移の状況（四半期）

- 売上高は、金属事業における銅価格の上昇及び金の販売量増加などにより**前四半期比+546億円の5,137億円**。
- 営業利益は、金属事業利益が為替・価格変動差などで増加し**前四半期比+49億円の128億円**。
- 経常利益は、営業利益の増加に加え、金属事業及びその他の事業における持分法投資損益、金銭債権債務為替差益の増加などにより**前四半期比+81億円の186億円**。



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

5

こちらは四半期毎の損益の推移です。

2025年3月期第1四半期の売上高は、金属事業における銅価格の上昇及び金の販売量増加などにより、前四半期比+546億円の5,137億円となりました。

営業利益は、金属事業利益が為替・価格変動差などで増加し、前四半期比+49億円の128億円となりました。

経常利益は、営業利益の増加に加えて、金属事業及びその他の事業における持分法投資損益や金銭債権債務為替差益の増加などにより、前四半期比+81億円の186億円となりました。

続いて6ページをご説明いたします。

25年3月期第1四半期実績（連結損益計算書）

（単位：億円）

項目	24年3月期 1Q実績(a)	25年3月期 1Q実績(b)	増減(b-a)
売上高	3,626	5,137	+1,510
営業利益	37	128	+90
受取配当金	7	10	+2
持分法損益	7	45	+38
経常利益	69	186	+116
特別損益	1	89	+88
親会社株主に帰属する 四半期純利益	49	209	+160
ドル為替 (円/\$)	137	156	+19
ユーロ為替 (円/€)	149	168	+18
銅価格 (¢/lb)	385	442	+58
金価格 (\$/oz)	1,978	2,338	+360
パラジウム価格 (\$/oz)	1,449	972	△478

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

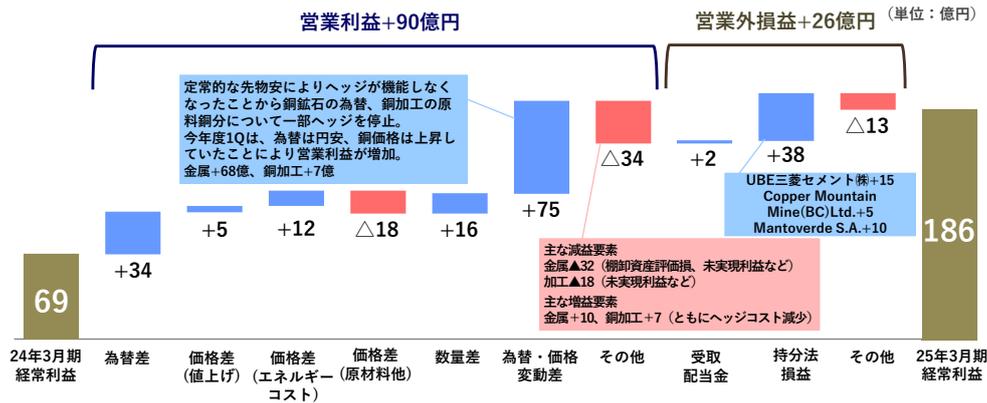
6

こちらは、2025年3月期第1四半期実績を示しています。
詳細を次のページでご説明いたしますので7ページの滝グラフをご覧ください。

25年3月期第1四半期実績（利益要因内訳）

営業利益、経常利益ともに増益

- 営業利益は、為替が円安基調で推移した影響、販売数量の増加に加えて、為替・価格変動差およびヘッジコストの減少などにより128億円（前年度実績+90億円の増益）となった。
- 経常利益は、営業利益が増加したことに加えて、持分法投資利益の増加などにより186億円（前年度実績+116億円の増益）となった。



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

7

こちらは、2025年3月期第1四半期の経常利益を2024年3月期第1四半期実績と比較した増減分析となります。

営業利益は、円安による為替差、増販に伴う数量差に加えて、為替・価格変動差およびヘッジコストの減少などにより、対前年で90億円の増益となりました。なお、この為替・価格変動差は5月14日に発表した通期業績予想の為替感応度には含んでおりません。通期業績見通し時点の為替前提の場合、為替・価格変動差はオフセットされると想定しております。

営業外損益は、UBE三菱セメント社や当社が出資している鉱山会社の持分法投資利益が増加したことなどにより、対前年で26億円の増益となりました。

これらの結果、経常利益は対前年で116億円増加の186億円となりました。

続いて8ページをご覧ください。

連結貸借対照表

				(単位：億円)			
項目	24年3月末 (a)	24年6月末 (b)	増減 (b-a)	項目	24年3月末 (a)	24年6月末 (b)	増減 (b-a)
流動資産	12,830	13,786	+956	借入金・社債・CP	6,031	6,209	+177
固定資産他	8,845	8,586	△259	その他負債	8,788	9,241	+453
資産 計	21,676	22,373	+697	負債 計	14,820	15,451	+631
自己資本比率	30 %	30 %	- %	自己資本	6,536	6,782	+246
ネット DEレシオ	0.7 倍	0.8 倍	+0.1 倍	非支配株主持分	319	139	△180
				純資産 計	6,856	6,922	+66
				負債純資産 計	21,676	22,373	+697

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

8

こちらは2024年6月末時点の連結バランスシートを示しています。

資産合計は2兆2,373億円となり、2024年3月末から697億円増加しました。

銅や金などの金属価格が上昇した影響を受け、棚卸資産を中心に流動資産が増加しました。

一方で、固定資産は減少しました。PT. Smelting社が当年度第1四半期末に連結子会社から持分法適用関連会社になり、固定資産を中心に約870億円がオフバランスとなったことが主な要因です。

続いて9ページをご覧ください。

25年3月期 通期業績予想

- 為替・価格変動差を除いた1Q実績は、ほぼ想定通り進捗。
- 通期業績予想・配当予想は、前回（5月14日）公表値から変更なし。
- 2Q以降は為替等において不透明感が強いと見られ、今後の市場動向を注視し、公表済みの業績予想に変更が必要と判断される際には、改めて業績予想の修正を行う。

(単位：億円)

連結損益計算書		24年3月期実績(a)	25年3月期予想(b)	増減(b-a)
売上高		15,406	19,500	+4,094
営業利益		232	410	+177
経常利益		541	630	+89
親会社株主に帰属する当期純利益		297	450	+152
一株配当 (円)	中間	47	50	+3
	期末	47	50	+3

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

9

為替・価格変動差を除いた第1四半期実績は、ほぼ想定通りで進捗しています。この点を踏まえて、通期業績予想・配当予想は、前回（5月14日）公表値から変更していません。

第2四半期以降は為替等において不透明感が強いと見られ、今後の市場動向を注視し、公表済みの業績予想に変更が必要と判断される際には、改めて業績予想の修正を行います。

続いて10ページをご覧ください。

セグメント概況（金属事業）

- 1Q実績は、為替が円安基調に推移した影響、銅や金の価格の上昇、販売の増加に加えて、為替・価格変動差、ヘッジコスト減少、持分法投資利益の改善などにより経常利益は121億円（前年度実績+95億円の増益）となった。

項目	24年3月期 1Q実績(a)	25年3月期 1Q実績(b)	増減 (b-a)
売上高 億円	2,409	3,900	+1,490
営業利益 億円	16	88	+71
経常利益 億円	26	121	+95

24年3月期1Q経常利益	26
為替差	+14
価格差	△4
数量差	+15
受取配当金	+2
持分法損益	+17
その他	+51
25年3月期1Q経常利益	121

為替・価格変動差+68億
ヘッジコスト減少+10億

こちらは、金属事業です。

事業の概況としましては、直島製錬所の操業は安定しており、第1四半期の電気銅生産量は、前年比17%増加の112万tとなりました。

また、ヘッジコストの適正化のため、ヘッジの一部を取りやめるなか、銅価・為替が期初想定よりも銅価高・円安で推移したため、業績の追い風となりました。

第1四半期の経常利益は、為替の円安影響、銅や金の価格の上昇、販売の増加、銅鉱石に係る為替変動影響、ヘッジコストの減少、カッパーマウンテン銅鉱山やマントベルデ銅鉱山の持分法投資利益の改善などにより、対前年で95億円増益の121億円となりました。

続いて11ページをご覧ください。

セグメント概況（銅加工事業）

- 1Q実績は、為替が円安基調に推移した影響、販売の増加に加えて、為替・価格変動差、ヘッジコスト減少などにより経常利益は8億円（前年度実績+8億円の増益）となった。

項目	24年3月期 1Q実績(a)	25年3月期 1Q実績(b)	増減 (b-a)
売上高 億円	1,016	1,130	+114
営業利益 億円	5	17	+12
経常利益 億円	△0	8	+8

24年3月期1Q経常利益	▲0
為替差	+2
価格差	+1
数量差	+2
その他	+3
25年3月期1Q経常利益	8

為替・価格変動差+7億
ヘッジコスト減少+7億

こちらは、銅加工事業です。

事業の概況としましては、自動車市場や半導体リードフレームの市場回復が遅れており在庫調整局面が続いたため、伸銅品の販売量は前年と横ばいの2万9千トンのままに留まりました。回復には今暫く時間がかかるものとみております。

第1四半期の経常利益は、為替の円安影響、増販（伸銅品販売量は微減だが品種構成差：端子材増、電子材減）、銅地金に係る価格変動影響、ヘッジコストの減少などにより、対前年で8億円の増益の8億円となりました。

続いて12ページをご覧ください。

セグメント概況（電子材料事業）

- 1Q実績は、シール製品の販売が減少した一方、機能材料の一部で需要に回復の兆しが見られたこと、減価償却費などの経費負担が減少したことなどにより経常利益は14億円（前年度実績+10億円の増益）となった。

項目	24年3月期 1Q実績(a)	25年3月期 1Q実績(b)	増減 (b-a)
売上高 億円	189	198	+8
営業利益 億円	1	7	+6
経常利益 億円	4	14	+10

24年3月期1Q経常利益	4
為替差	+1
価格差	△1
数量差	△2
受取配当金	+0
持分法損益	+2
その他	+10
25年3月期1Q経常利益	14

こちらは、電子材料事業です。

事業の概況としましては、半導体市場は生成AI関連を中心に緩やかな回復局面に移ってきており、精密実装材料や化成品については既に動きが出てきています。半導体市場は段階的に回復していくとみていますので、調整が続いているシリコン精密加工品やシール製品につきましても下期以降は回復を見込んでいます。

第1四半期の経常利益は、シール製品の販売が減少しましたが、機能材料製品の一部で収益が回復したこと、減価償却費などの経費負担が減少したことなどにより、対前年で10億円増益の14億円となりました。

続いて13ページをご覧ください。

セグメント概況（加工事業）

- 1Q実績は、為替が円安基調に推移した一方、自動車向け需要が低調であったことに加えて、棚卸未実現利益の影響などにより経常利益は34億円（前年度実績△6億円の減益）となった。

項目		24年3月期 1Q実績(a)	25年3月期 1Q実績(b)	増減 (b-a)
売上高	億円	350	381	+30
営業利益	億円	32	29	△3
経常利益	億円	41	34	△6

24年3月期1Q経常利益	41
為替差	+16
価格差	+2
数量差	△3
受取配当金	+0
その他	△21
25年3月期1Q経常利益	34

こちらは、加工事業です。

事業の概況としましては、第1四半期は自動車向け切削工具の需要回復が見られず、第2四半期以降は国内自動車メーカーの増産計画に起因する部品メーカーでの需要増加や、海外での航空機・医療向けの需要回復等により、緩やかな需要の回復を見込んでいます。

第1四半期の経常利益は、為替の円安影響がありましたが、自動車向け需要の低調、海外販社での未実現利益の増加（円安による在庫評価の上昇などが要因）などにより、対前年で6億円減益の34億円となりました。

続いて14ページをご覧ください。

UBE三菱セメント社概況

■UBE三菱セメント社連結損益計算書 (単位：億円)

項目		24年3月期 1Q実績	25年3月期 1Q実績
売上高	国内事業	1,009	905
	海外事業	469	527
	計	1,478	1,433
営業利益	国内事業	△7	24
	海外事業	102	113
	計	94	138
経常利益		97	151
親会社株主に帰属する 四半期純利益		44	77

■当社持分法投資損益

持分法投資損益	20	36
---------	----	----

- 国内事業：セメント、石炭、電力の販売数量が減少したものの、セメント値上効果や熱エネルギー価格低下によりセメント事業の収益性が改善し、増益となった。
- 海外事業：米国において、2023年1-3月期の天候不順による繰越需要のため出荷が多かった前年度に比べ販売数量は減少した一方で、生コン等の値上効果及び為替影響が寄与し、増益となった。なお、豪州石炭事業は販売価格下落の影響を受けた。

■UBE三菱セメント社諸元

項目		24年3月期 1Q実績	25年3月期 1Q実績
セメント (国内総需要)	万 t	858	816
セメント (国内)販売数量	万 t	206	192
セメント (米国)販売数量	万st	49	42
生コン (米国)販売数量	万cy	202	182
一般炭価格 (参考指標)	\$/t	161	136
ドル為替	円/\$	137	155

※上記一般炭価格は参考指標であり、実際の調達価格とは異なる。

(参考) 24年6月末 連結貸借対照表

(単位：億円)

総資産	8,243	有利子負債	1,798	自己資本	3,794
自己資本比率	46.0%	ネットD/Eレシオ	0.28倍		

こちらは、UBE三菱セメント社です。

国内事業は、セメント、石炭、電力の販売数量が減少したものの、セメント値上効果や熱エネルギー価格の低下によりセメント事業の収益性が改善し、増益となりました。

海外事業は、米国において、2023年1-3月期の天候不順による繰越需要があり、出荷が多かった前年度に比べ販売数量は減少した一方で、生コン等の値上効果及び為替影響が寄与し、増益となりました。なお、豪州石炭事業は販売価格下落の影響を受けました。

参考情報

セグメント別増減内訳

(単位：億円)

項目	24年3月期 1Q実績(a)			25年3月期 1Q実績(b)			増減 (b-a)		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
金属	2,409	16	26	3,900	88	121	+1,490	+71	+95
高機能製品 *1	1,205	4	2	1,323	23	20	+118	+18	+18
銅加工	1,016	5	△0	1,130	17	8	+114	+12	+8
電子材料	189	1	4	198	7	14	+8	+6	+10
加工	350	32	41	381	29	34	+30	△3	△6
再生可能 エネルギー	12	3	3	23	9	12	+10	+6	+9
その他	334	△1	20	350	6	40	+16	+7	+19
調整額	△686	△18	△24	△842	△28	△43	△156	△10	△19
合計	3,626	37	69	5,137	128	186	+1,510	+90	+116

*1.高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しております。

前年実績対比（セグメント別要因内訳）

（単位：億円）

項目		24年3月期 1Q実績 (a)	25年3月期 1Q実績 (b)	増減 (b - a)	為替差	価格差	数量差	受取 配当金	持分法 損益	その他
金属	売上高	2,409	3,900	+1,490	+390	+485	+615	-	-	-
	営業利益	16	88	+71	+14	△4	+15	-	-	+46
	経常利益	26	121	+95	+14	△4	+15	+2	+17	+51
高機能製品 * 1	売上高	1,205	1,323	+118	+46	+120	△48	-	-	-
	営業利益	4	23	+18	+4	+0	△1	-	-	+15
	経常利益	2	20	+18	+4	+0	△1	+0	+1	+13
銅加工	売上高	1,016	1,130	+114	+41	+122	△49	-	-	-
	営業利益	5	17	+12	+2	+1	+2	-	-	+7
	経常利益	△0	8	+8	+2	+1	+2	△0	-	+3
電子材料	売上高	189	198	+8	+5	△2	+5	-	-	-
	営業利益	1	7	+6	+1	△1	△2	-	-	+8
	経常利益	4	14	+10	+1	△1	△2	+0	+2	+10
加工	売上高	350	381	+30	+29	+1	+0	-	-	-
	営業利益	32	29	△3	+16	+2	△3	-	-	△18
	経常利益	41	34	△6	+16	+2	△3	+0	-	△21
再生可能 エネルギー	売上高	12	23	+10	-	-	△2	-	-	+12
	営業利益	3	9	+6	-	-	△1	-	-	+7
	経常利益	3	12	+9	-	-	△1	△0	+3	+7
その他	売上高	334	350	+16	+3	-	+13	-	-	-
	営業利益	△1	6	+7	+0	-	+5	-	-	+2
	経常利益	20	40	+19	+0	-	+5	△0	+15	△1
調整額	売上高	△686	△842	△156	△69	△82	△5	-	-	-
	営業利益	△18	△28	△10	-	-	+0	-	-	△10
	経常利益	△24	△43	△19	-	-	+0	+0	△0	△19
合計	売上高	3,626	5,137	+1,510	+401	+524	+572	-	-	+12
	営業利益	37	128	+90	+34	▲1	+16	-	-	+41
	経常利益	69	186	+116	+34	▲1	+16	+2	+38	+28

* 1.高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しております。

セグメント別四半期推移

(単位：億円)

項目		24年3月期							25年3月期
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q
金属	売上高	2,409	2,358	4,768	2,395	3,216	5,611	10,380	3,900
	営業利益	16	54	71	△3	30	27	98	88
	経常利益	26	58	84	198	27	225	310	121
高機能製品 *1	売上高	1,205	1,224	2,429	1,253	1,204	2,457	4,887	1,323
	営業利益	4	3	8	16	16	32	40	23
	経常利益	2	△0	1	8	8	16	18	20
銅加工	売上高	1,016	1,027	2,043	1,059	999	2,058	4,102	1,130
	営業利益	5	5	10	8	7	15	26	17
	経常利益	△0	△1	△2	△2	△1	△3	△5	8
電子材料	売上高	189	199	388	201	208	410	799	198
	営業利益	1	△1	0	7	9	17	17	7
	経常利益	4	2	6	9	11	21	28	14
加工	売上高	350	347	698	349	352	702	1,400	381
	営業利益	32	19	52	29	25	55	108	29
	経常利益	41	22	63	27	31	59	122	34
再生可能 エネルギー	売上高	12	10	22	12	11	23	46	23
	営業利益	3	△0	2	3	2	5	8	9
	経常利益	3	△0	3	2	3	5	8	12
その他	売上高	334	390	725	417	463	880	1,606	350
	営業利益	△1	16	15	16	45	62	78	6
	経常利益	20	62	82	51	87	138	221	40
調整額	売上高	△686	△795	△1,482	△774	△657	△1,431	△2,913	△842
	営業利益	△18	△12	△31	△27	△42	△70	△101	△28
	経常利益	△24	△27	△51	△35	△53	△88	△140	△43
合計	売上高	3,626	3,535	7,161	3,653	4,590	8,244	15,406	5,137
	営業利益	37	81	119	34	78	113	232	128
	経常利益	69	114	184	252	104	356	541	186

*1:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しております。

諸元

主要製品の生産・販売動向

項目	24年3月期							25年3月期	
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	
電気銅	生産量 千 t	96	109	204	95	113	208	413	112
	販売量 千 t	86	99	186	92	111	203	388	102
金	生産量 t	9	6	14	4	8	12	26	9
	販売量 t	8	6	14	4	8	12	26	9
銀	生産量 t	66	61	126	44	65	109	235	81
	販売量 t	65	61	126	39	71	110	236	82
伸銅品	販売量 千 t	29	31	61	32	31	63	124	29

鉱山配当額の推移

項目	24年3月期							25年3月期
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q
Los Pelambres 配当額 億円	-	-	-	208	1	210	210	-
Escondida 配当額 億円	6	3	9	9	2	12	21	8
鉱山配当額計 配当額 億円	6	3	9	217	4	222	231	8

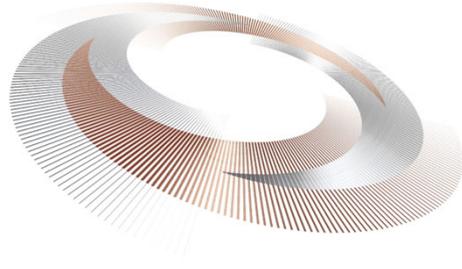
金属価格・為替の推移

項目	24年3月期							25年3月期
	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q
ドル為替レート 円/\$	137	145	141	148	149	148	145	156
ユーロ為替レート 円/€	149	157	153	159	161	160	157	168
銅価格(LME) €/lb	385	379	382	371	383	377	379	442
金価格 \$/oz	1,978	1,929	1,954	1,976	2,072	2,024	1,989	2,338
パラジウム価格 \$/oz	1,449	1,251	1,350	1,085	978	1,031	1,191	972

持分法投資損益内訳

(単位：億円)

会社名	当社 持分	24年3月期							25年3月期
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q
Copper Mountain Mine(BC)Ltd.	25%	△4	△17	△22	5	△5	0	△22	0
Mantoverde S.A.	30%	△12	2	△10	△2	△10	△13	△23	△2
PT.Smelting	34%	-	-	-	-	-	-	-	-
関西リサイクル システムズ	41.4%	1	1	2	1	1	2	5	1
フジクラダイヤ ケーブル	22.5%	2	1	4	2	2	5	9	3
湯沢地熱	30%	0	0	0	2	1	4	4	3
UBE三菱セメント	50%	20	47	67	29	41	70	138	36
その他		1	1	2	1	△2	△0	2	2
合計		7	37	45	41	28	70	115	45



人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

注意事項

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、将来の計画等は、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものであり、実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料の計画等と大きく異なる可能性があります。

したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

お問合せ先

三菱マテリアル株式会社
コーポレートコミュニケーション室 IRグループ

〒100-8117 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル

ml-mmcir@mmc.co.jp

<https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/index.html>